

細く長く続ける

ということ

——遊びを見つめる会——

それは、長女が三才、長男が三ヶ月になろうとするお正月のことでした。私は長女を連れて友人のOさんと彼女の四才になる寸前のお嬢さんと横浜で久し振りのおしゃべりを楽しみました。なにしろ彼女は神戸、私は千葉に住んでいるものだから、一年に一度逢えれば万々才なのです。その時、私は、彼女を或る事に巻き込むことに心を決めたのです。



入江 礼子

その或る事とは……。当時私は、長女が生まれた時にはじめた育児記録が、長男の誕生でつけることがおぼつかなくなりはじめたのを感じていました。つい日常生活の忙しさにかまけ、書くこと、つまりおもしろいと興味をもったことにもう一度じっくりと眼をむけるといふ作業を怠りがちになっていたのです。いつもこれではないいけないと思いつつ時ばかりが流れていき、それを

喰い止めるだけの意志の力がなかなか芽生えてきませんでした。家庭に入り主婦専業ということになると、外から律されて何かをするということはほとんどなくなりません。それは自由で、自分の意のおもむくままに出来るという良さはあります。しかし、それゆえ、何かをしたいと心に決めた時には、何にも負けない「意志」の力を必要とするのです。私は自分にその「意志」を持統するところが困難になりかけているのを感じはじめていました。そこで、Oさんの助けを借りようと思ったわけです。

学生時代、自分が子ども達とふれあいの時を持った日、その日心に残ったことを文字にし、あとでじっくりそれを読みかえす、その時その場では見えなかった様々な事どもが見えてくるいいような楽しさを何回も味わったものでした。私にとって書くこととはそういう喜びをあとでじっくり味わうためには必要欠くべからざることだったのです。ところが、日々我が子と過ごすよう

になると、それが日常になってしまったゆえに、かえて、書けなくなり、見えなくなってきたのでした。これではいけない、ともかく書き続けようと思いましたが。しかし、書かない日々が度重なっても、誰も何もいわないし日常生活が困るというわけではありません。私はこの時、つくづく自分が意志薄弱に思え自己嫌悪に陥りました。何とかしなくては……。

そこで私は、Oさんの上京を機に、一人で書き続けるのではなく、「友」を巻き込んで皆で、書きあう「会」を作ろうと思ったのです。自分一人ならへこたれることでも「会」を作ることで、その状況を乗り越えられるかもしれないと思ったわけです。幸い、Oさんの心からの賛同を得られ、先輩のTさんにも声をかけ、その年、「遊びをみつめる会」は十数人で出発しました。年四回、主に子どもと触れたなかで感じたり考えたりしたことを自由な題材でレポートし、書きたい人が書いて、それを会員に読んでもらい、出来れば、感想も……、という大きな枠組ではじめることにしました。そろそろ四年経つ

現在もこの方式に変わりはありません。会員の分をコピーし、皆に郵送するという方式を繰り返しています。内容は自由なので、レポート一つ一つが独立しています。一時、内容を一号ごとに統一しようかとも思いましたが、試行してみたところ、レポートが集まらないという結果になりました。子育て中にある人が多数を占める現在の状況では、テーマを特定すると書きそびれてしまうということになるようです。そこで又、書きたいことを自由に、ということに現在に至っています。現在、会員は三十数名、うちレポートを出して下さる方は、毎回十名前後という具合で続いています。

この会をはじめ、私は事務局という裏方をし、その特典と恩恵を大いに受けています。これは内輪の話になりますが、レポート締切日までには寄せられるレポートは、多く一通か二通、時にはゼロということすらあります。しかし締切日を過ぎた頃からポチポチ集まりはじ

め、約二週間後には、大いに出そろうというのが毎回の相場になっています。裏方としては、締切に集まるにこしたことはないと思いつつも、ともかく一人でも多くの方のレポートを載せたいと思っていますので、「待つ」ことに徹するわけです。何をかくそう、かく言う私も大い締切日あたりに書くというのが実状であり、裏方の特典と知っているのですから……。

こうして四年が過ぎようとする今、ともかく締切のあることに助けられて、その時書いておきたいと思ったことの最低の線は守り続けられてきたように思っています。私自身のことでは、はじめの頃に比べ、ただ子ども達との日常を書くという考察なしの書きものに終っているのですが、それでも書きたまってくる楽しさはありませんし、内容が簡単になってきて深める余裕がないという自己反省の機会にもなっています。いつかこれを読みかえし、別の角度から見ることが出来る日も必ずあると信じて書き続けていこうと思っています。さらに、自分の書いたものを読んでもらうということは、書くこと

に一種の緊張感を与えますし、自分で自分を律しきれない私のような弱い人間には、丁度よい刺激となります。

今でも毎日書きとめておきたいことは多々あるにもかかわらず、そのほとんどを流して過ごしているような日常ではあるのですが、やはり心のどこかに三ヶ月に一度は書くということがあるので、「遊びをみつめる会」をしていかなかった頃よりは、「心の張り」のようなものがあるように思えてなりません。それは、同好の友と進んでいるという一種の心強さにも通ずるようにも思われま

す。

これをしたためているそばで長女は、リアンを編み、長男はブロックでロボット作り、「ドッキングパワ―、ドカーン！ ドヒューン」などと歌いながら遊び、二女は、長男のおこぼれのブロックをお皿に入れたり出したりして遊んでいます。こんなに子どもに恵まれた状況にあるにもかかわらず、かえって遊びの内容なりその子にとっての成長の意味などということがとらえにくくなっていく私ですが、この「会」を基盤にして少しでも

書き続け、見続け、私なりに幼児の、ひいては人間の成長に対して、すこしでも深く洞察出来るようになればいいと思うこのごろです。

子育て中のことゆえ、一つのこと全力投球できるほど太く強くは出来ませんが、せめて「細長く」絶やさずに続けてゆきたいと思うのです。

